

地理総合・地理探究 2026 年度 出題の意図

観光・交通、日本の都市、気候といった分野について、リード文に加えて、地図、図表や統計などの視覚資料を用いて理解度を問うことを意図した。教科書に掲載されている基礎から標準レベルの事項を問うことに主眼を置き、日常的に教科書や地図帳を用いることで「位置（どこで）」や「因果関係（なぜ）」を意識した学習を積み重ねているかを確認する設問とした。語句の暗記にとどまらず、系統地理と地誌の両面から事象を関連づけて捉える力も求めた。

第1問は、観光・交通について、世界遺産やナショナルトラスト、観光の現状に関するリード文を用いて出題した。UNESCO、知床半島、姫路城、宿場町といった基礎的な事項を空欄補充の選択問題で問うとともに、ヴェネツィアを題材としたオーバーツーリズム問題や、交通と都市の関係性を上げた。さらに、ラテンアメリカ諸国からスペインへの旅行者増加の背景を論述する設問を出題し、地理事象を因果関係に即して説明する力を測った。

第2問は、日本の主な都市について、福岡市・高崎市・神戸市・長崎市・新潟市の5都市に関する説明文をリード文とした。対馬海峡、関東平野、扇状地、リアス海岸、日本海といった地形・海域の名称を答える空欄補充の設問に加え、神戸市と姉妹都市提携を結ぶアメリカ西海岸の都市や、日本の小麦・魚介類の輸入相手国に関する統計資料問題も出題した。さらに、信濃川下流域の分水路敷設による海岸侵食の進行を説明させる論述問題を設け、自然環境と人間活動の関わりへの理解を確認した。

第3問は、気候要素と気候因子をテーマとするリード文を用い、受熱量、前線、恒常風といった基本用語を空欄補充で問うた。あわせて、熱赤道や気温の年較差、偏西風の卓越地域、貿易風と海流の関係を取り上げ、フェーンとシロッコを地図から判別させる設問を出題し、イタリア周辺の局地風の理解度を測った。また、ヒートアイランド現象についての説明とその対策から、都市気候の仕組みへの理解を確認した。

※各問いの詳細は、一般選抜A一日目の内容に基づいて記載しております。